

議 事 録

会議名 第5回国見版 CI 策定検討委員会

日 時 令和6年1月19日（金）13：30～15：10

出席者 委員：10名（斉藤委員長、持地委員、佐藤委員、三栗野委員、鈴木委員、近久委員、齋藤委員、上神田委員、原田委員、伊藤委員）

欠席1名（阿部委員）

事務局：企画調整課長、蓬田、加藤

傍聴：2名

概 要（意見交換等抜粋）

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

（1）国見版 CI（コーポレート・アイデンティティ）について
資料に基づき事務局から説明。

前回検討委員会の振り返りとグラフィック（案）を提案。

（2）意見交換

Aグループ

- ・グラフィック（案）全体については、ぱっと見て好きだな、かわいいという意見もあったが簡単なロゴをイメージしていたので、どのような時に使うのか整理が必要だと思った。
- ・今後の進め方について、意見公募の町民の方への周知方法について LINE や広報紙など多方面から周知しないとみんなに届かない。

Bグループ

- ・グラフィック（案）について、いろいろ詰め込んでいるためサイズが小さくなるとわかりにくくなる。町内の人が見ても防塁や道の駅はわかりにくいのでもっとシンプルでも良いと思う。
- ・描かれているものとして、町の現状は表現されているが、未来について表現することはできないか。

Cグループ

- ・グラフィック（案）について、町の現状は表現されているが、将来どのような町に向かっていきたいのかが伝わらない。町の現状を踏まえて、町が今後どうしていきたいのかをグラフィックで表現できれば本来は良いのかと思う。

（3）その他

4 閉会

議事録（詳細）

1 開会

2 委員長あいさつ

今年もよろしくお願いします。会議も大詰め近づいてきていると感じています。今日はいろいろ考えていることを率直に話していただき、良いものを作りだしていきましょう。よろしくお願いします。

3 協議事項

(1) 国見版 CI（コーポレート・アイデンティティ）について

資料に基づき事務局から説明。

前回検討委員会の振り返りとグラフィック（案）を提案。

(2) 意見交換

新たに提案したグラフィック（案）についてグループごとに分かれて、感想や意見などを共有。共有後、グループごとに発表。

【発表】

Aグループ

- ・グラフィック（案）全体については、ぱっと見て好きだな、かわいいという意見もあったが、簡単なロゴをイメージしていたので、どのような時に使うのか整理が必要だと思った。梁川町の街中で外灯にフラッグが掲げられているのを見て、国見でも駅前や道の駅などさまざまな場所にこのグラフィックが描かれたフラッグが飾ってあれば良いと思った。
- ・「STAY」のワードについて、Aグループでは違和感があるという意見はなかったが、宿泊施設が町内に少ないので、STAYにつながるように宿泊施設を増やしていければ良いなと思った。温泉のような訪れたい施設が今後増えてほしい。
- ・「寄り町」は造語になるので、すんなり入ってこないのではないか。
- ・フォントについてはA案かB案が良いという意見になった。D案は崩れすぎている。
- ・今後の進め方について問題ないと思うが、意見公募の町民の方への周知方法についてLINEや広報紙など多方面から周知しないとみんなに届かない。届かないと、勝手に決められた感が出て、デザイン決定後も受け入れてもらえないと思うので、アプローチの仕方はしっかり検討するべき。

Bグループ

- ・グラフィック（案）全体について、いろいろ詰め込んでいるためサイズが小さくなるとわかりにくくなるおそれがある。町内の人が見ても防壁や道の駅は分かりにくいのでもっとシンプルでも良いと思う。ふりがなを無くしてもっとすっきりさせたほうが良いのではないか。
- ・コンセプトに「山から未来へ続く道」とあるが、グラフィックでは山から下りてきているように見える。
- ・描かれているものとして、道の駅や畑など町の現状は表現されているが、未来について表現することはできないか。
- ・フレーズ（案）について、寄ってSTAYして、その先はどうなるのか。観光的な意味合いで

あれば良いと思うが、住んでもらうところまで繋げるには伝わりにくい。

Cグループ

- グラフィック（案）について、町の現状は表現されているが、将来どのような町に向かっているのか伝わらない。道の駅のロゴの「道の駅国見あつかしの郷」の部分に「寄り町STAY国見町」に入れ替えたとしても、伝えたいメッセージはほぼ一緒に見える。道の駅のロゴも今回のグラフィックもデザインのプロセスが同じように感じた。町の現状を踏まえて、町が今後どうしていきたいのかをグラフィックで表現できれば本来は良いのかと思う。「寄り町STAY国見町」のフレーズを見たときに多くの方は、町は今後観光に力を入れていくと捉えると思うがそれで良いのか。交通の便が良いという価値は、人の往来が多いので新しい人との出会いがあり、新たな価値が生まれ、アカリができたり、SNSの情報発信事業が立ち上がるなど、他の町にはない新たな取り組みがやっとなんてできているので、今後もそのような取り組みが継続して起こっていくと良いなとは思っていた。町として観光産業のように立ち寄れる場所をたくさん整備していくのであればこれでも良いと思う。
- STAYしてもらうための、町の精神性や魅力をもっと打ち出したほうが良い。STAYしてほしい気持ちはどこの町も持っていると思うので、国見町にSTAYする価値がなぜあるのかを表現できれば良いと思った。

斉藤睦委員長

- 将来についての部分もグラフィック化できれば、今後町がどのように変わっていくのかが見えて良いという意見が多く出されたと感じた。総合計画を作るときには必ず町の将来像を議論するが、今回はC1なので今後町がどのように進むべきかという明確な議論までは行われていない。現状どういう町なのかという点を分析し、このようなデザインになったと思う。町に寄ってもらうための町の魅力をグラフィックに表現できないかなど、もう少し議論の余地がこのデザインにはあるように思った。
- 今後の進め方については町民の意見をいただいてまとめていくことについては問題ないが、周知の時に多くの人に知ってもらわないと、急に町が決めてしまったと思われてしまうのもつらいので知らせ方に工夫が必要。
- 1つの絵の中で町の未来について表現することはなかなか難しいことではあるがチャレンジする意味はあると思う。

(株)パーティ・フー

- さまざま意見をいただきありがとうございます。「寄り町」という言葉の意味について、これから国見町がどのような事業をやっていくのかをさまざまな人に聞き取りをして考えた。その中で、個々にはみんなそれぞれ目的はもっているが、町として全体的にどのような事業を行うのかが見えなかった。寄り町してくれる物、例えばゲストハウスやフルーツガーデンなど寄り町してもらうための魅力づくりを個々にしてもらうというのがこの事業だと思う。例えば食べ物や建物や農業をアピールして見に来てもらうなど、寄り町してもらうための作業を前向きに行っていければと考えた。「STAY」についても泊まるまでは難しいという話はリサーチの中でも出ていた。ちょっと立ち寄ってもらい、留まってもらい、その後、ゲストハウスが出来てくればというような流れを作りたいと思いまとめさせてもらった。みなさんから意見をいただいたとおり、グラフィックには現状しか描いていないため、みなさまからのご意見があれば未来の絵も追加していくこともひとつの方法だと考えている。

事務局

- ご意見をいただきありがとうございます。事務局としては単純に、国見町は通過する人が多いと聞いているので寄ってもらい、関係人口創出につなげたいという想いがあった。町にはこういったものがあるので寄っていただくということを分かりやすく表現した。時期的にはタイトになってきており、これまで約2年間議論を進めてきた経過もあるため、フレーズについては「寄り町 STAY 国見町」で進めていきたいと考えている。

斉藤睦委員長

- それに関しては比較的同意いただいていたという認識でいたが、フレーズはこれで良いでしょうか。

Cグループ

- 「寄り町 STAY 国見町」で決定後に役場内の各課でさまざまな事業を行っていると思うが、各課との摺り合わせは行うのか。

事務局

- 役場内部については情報を共有化する。町の将来像については、総合計画の中では謳っており、どの事業に力を入れて具体的にやっていくというよりは総論的な記載の仕方になっている。町の現状としては少子高齢化や人口減少が課題となっているため、移住定住や町の活性化に力を入れるなど、まずは関係人口創出事業を行っていききたいという想いがある。

Cグループ

- 「寄り町 STAY 国見町」の伝えたいことは寄ってほしいということだと思うのでシンプルに「寄ってこ」や「寄ってみ」でも良いのではないかと。福島県のポスターの「来て」のようなイメージ。

Aグループ

- 計画にも実施期間があり流動的なので、C Iについても期間経過ごとに見直しをかけても良いと思う。

斉藤睦委員長

- C Iは長い期間使うものもあれば短命で終わるものもある。通常10年くらいは使用する。

Bグループ

- 「寄り町」という言葉がみんな覚えられるかが疑問。寄り町と言って国見町をイメージしてもらえるようになるのか。「献上桃」と言えばみんな桑折町を思い浮かべるし「花も実もある」と聞けば福島市とわかる。覚えにくいという感想を持った。

斉藤睦委員長

- 新しく作った言葉なのでまだ馴染みは無いと思う。これから言い慣らしていかなければならない。

事務局

- 使っていけば浸透していくのかなとは考えている。県でも「ひとつひとつ実現する福島」というフレーズを使っているが、使っているうちに定着してきたように思える。県北地方には桑折、福島、伊達など自治体があるが、同じような位置にあり、同じような気候で同じような地場産品がある。尖らせるものを探すとどうしても似たようなものになる。さまざま検討したうえで、町に寄っていただきたいところをクローズアップした。また、国見に住んでいると阿津賀志山は馴染みが深いものではあるので言葉やグラフィックには入れたいと思っていた。今、素案を提示しているが、今後全く修正しないというわけではなく、見直しながら活用していきたい。

齊藤睦委員長

- ・私もさまざまな自治体と関わってきたが「寄り町」という言葉はとてもユニーク。またグラフィックを絵として打ち出していることも特色がある。それゆえに引っかけると思う人はいるかもしれないので難しいところではある。「寄り町 STAY 国見町」をひとつのフレーズとして、使用方でさまざま表現を変えていくのはありそうと考えている。
町民のみなさんにこの素案を問いかけてみても良いでしょうか。

Aグループ

- ・問いかけると「寄り町」ってなんですかという声が多いと思う。「寄り町」の意味を熱く説明する必要がある。

(株)パーティ・フー

- ・今後町がどんな町になってほしい、どんなことを国見町でやりたいか、こんな事業があればいいなど意見があれば個人的なものでも構わないので教えてほしい。

Aグループ

- ・あつかし農友会に参加し年3回マルシェを行っている。伊達市在住だが国見のマルシェに参加することが多く、ありがたいと感じている。国見には住んでいないがこのような活動は今後も続けていきたいと思っている。

Cグループ

- ・個人的な希望になるが、結婚を望まない人やLGBTQの方などさまざまな生き方があるなかで、移住支援となると多くの自治体で子育て支援や家族向けになってしまう。人口減少が進む中で、家族連れの方が町に来てくれるのはもちろん良いと思うが、それ以外でも1人でも生きていきやすい政策があったり、生きづらさを感じている方でも生活しやすい空気感を売りに出していく、パートナーシップ制度を認めるなど他であまり行われていないことを行っていくと、別の角度からもこの町に来たいという人が増えると思っている。

齊藤睦委員長

- ・国見町に来る前、石井社長からこの町はとても良い町だということを聞いていた。実際来てみて、そのような空気感があると感じた。
- ・段階としては町民の方に意見をうかがいたいというところに来ていると思うので、その時にもご意見があれば出していただきたい。

事務局

- ・ご意見いただきありがとうございました。素案について町民の方から意見をいただきブラッシュアップしていくという流れで進めていきたいのでよろしくお願いします。

(3) その他
特になし

4 閉 会